

# 場外舟券発売場…市民生活に少くない影響 くるみ家族園の指定管理者…直ちに取り消すべき (仮称)厚生産業会館…まずは市民の声を聴くべき

## 日本共産党議員団が上越市議会史上初めて 単独で一般会計補正予算の修正案を提出

今議会に提出された一般会計補正予算は、歳入歳出予算総額に9億4947万円を追加し、予算規模を1136億4616万円にするものでした。

この補正予算には市民から強く求められていた住宅リフォーム促進事業の増額や放射線測定の実施経費などが盛り込まれていますが、同時に、場外舟券発売場設置、(仮称)厚生産業会館の整備検討委員会の関連経費など市民にとって見逃すことのできない経費も含まれていました。日本共産党議員団は、これらの問題のある経費を削除するため、修正案を提出しました。

削除した予算のひとつは、場外舟券発売場設置関連経費です。歳入のうち、場外舟券発売場設置事務協力費473万2千円および、場外舟券発売場施設転貸料141万8千円を減額しました。

また、歳出で、場外舟券発売場施設借上料141万8千円を減額しました。



修正案の説明をした平良木議員。

市内富岡地区に計画されている場外舟券売り場は、学校から至近距離にあるなど市民生活に少くない影響を及ぼすことが懸念される施設です。しかも、経営見直しはまったく不透明となっています。

二つ目は、上越リゾートセンターのみ家族園です。現在の指定管理者の指定の期間をこれまでの5年から今年度限りの1年とする変更に伴い、補正予算では、新たな指定管理者を選定するため、指定管理者選定委員会の開催に必要となる経費13万6千円が盛り込まれました。これも削除しました。

しかし、私たちは、4月に発生した利用者の死亡事案に際し、利用者の入場の翌朝になって家族の問い合わせがあるまで遺体が発見されなかったという重大な事態を引き起こした管理実態を重視し、現在の指定管理者の指定を直ちに取り消し、当面、市の直営とすべきだ判断しました。

三つ目は(仮称)厚生産業会館検討委員会経費です。同会館の基本構想策定に当たり、設置するとされる検討委員会のための費用は59万7千円です。

(仮称)厚生産業会館は市長の選挙公約であるとはいえず、昨今の市の財政の厳しさなどから、市長自らいったんは建設について「現在実施する環境には至っておりません」と発言してきました経過があります。ところが、今議会

では、一転、検討委員会の設置が提案され、市の幹部からは「地域事業費の見直しを議会や地域のみなさんに説明し、一定の理解が得られたというなかで、環境が整ったという判断をした」との説明があつたのです。

しかし、地域事業費制度の見直しについては、議会でも優先度をどうするかなどについて引き続き調査されることになっているほか、市民からも、「地域事業費制度のみなおしそのものについてもっと説明を」との声も出ています。

こうした状況の中でいま必要なことは、施設建設の可否そのものについて市民に意見を聞くことです。したがって、現在の時点で検討委員会を設置するのは時期尚早であり、不適當であるとして、修正案では関連経費を削除しました。

日本共産党議員団はこれまで市議会でも二回にわたって他党派議員と協力して議案の修正案を提出してきたことがあります。しかし、単独で修正案を提出したのは上越市議会史上初めてのことです。議案提案権をもっている議員団として、議案内容に賛成の部分と反対の部分が入っていた場合、修正を求めるのは当然のことです。

ただ、残念ながら、今回の修正案は日本共産党議員団のほかに賛成がなく、否決されてしまいました。

日本共産党議員団のほかに賛成がなく、否決されてしまいました。



朝晩ぐんと冷え込むようになりました。つい先だってまではバスタオルを一枚、腹に巻いていれば眠れたのに、いまは、毛布に布団を重ねてかぶせ、そのなかで体を丸めています。

一〇月は衣替えの月です。子どもの頃から、六月と一〇月は衣替えをするものだと教え込まれていましたので、冬服から夏服へ、夏服から冬服への衣替えにはあまり抵抗感がありません。それにしても、今年の一〇月のはじめは衣替えのタイミングとしてはどんびしゃででした。冬服に変えざるをえないほど急激に冷え込んだからです。

私の場合、太っていることもあって、ちよつと動くとすぐに汗ばみます。ですから、よほど寒くならないと半袖から長袖シャツへの切り替えはしませんが、今年はいままでできませんでした。さつさと長袖シャツを出して着ました。ただ、半袖はまだ全部しまわないうえです。時々、半袖の上にジャンパーを着ることがあるからです。これは寒暖の差が大きい時にはとても便利なのです。

この一〇月は最低気温が一〇度を割る日がありました。妙高、火打などの頸城三山で初冠雪をみた日です。油断をして風邪をひいてしまった人もけっこうおられるようです。かく言う私も、じつは鼻がぐずぐずしています。原因は風呂上がり夏場と同じ格好で寝てしまったからですが、これにはまいりました。衣替えの基本は暑さ寒さなどから身を守ることであることを忘れてはなりませんね。

衣替えをした時、何となく気分も変わります。六月、私はたいして暑くなくとも半袖にします。半袖にすると、何よりも身軽になります。そして分厚いものを脱いで楽々した時の解放感がいい。家の中にじっとしていないで、いっときも早く外に飛び出したくなります。

一〇月の場合とはいうと、その逆。軽い服装から、今度は全身を包む服装に替わります。着ているものの色にもよりますが、一定の重量感があつて、身も心も落ち着きが出てきます。そのせいだからでしょうか、半袖シャツ姿の人よりもスーツを着ている人の方が落ち着いて見えることがあります。

私が小中学生だった頃、私のまわりでスーツ姿で仕事をしている人といえば、学校の先生くらいなものでした。どの先生も人生の達人という気がしました。いまから思うと、それだけ優れた先生方が私のまわりにおられたということですが、なかには、近寄りたがたい雰囲気を持った先生もおられました。

その代表格は、私が源小学校一年生の時から源中学校二年生まで校長だった熊倉平三郎先生です。たぶん、源中学校の二年生の頃だったと思います。初めて校長室に入った時は緊張しました。何の用事で入ったのかはまったく憶えていないのですが、記憶に鮮明に残っているものがあります。校長先生の愛用されていた極太の万年筆とスーツ姿です。このふたつだけで私は圧倒されてしまいました。熊倉先生については、校長室での印象が強く、不思議なことに夏服の時の姿はいつも思い浮かべることができません。

さて、今年の一〇月が一日が土曜日だったこともあって、妻の最初の勤務日は三日となりました。出かける時に妻が着てきたものは、だいたい色と緑色などのチェック柄のシャツでした。これまで着てきた夏服とは違った、とてもいい感じが出ていたのと思わず声をかけました。「おや、母さん、秋になったね」と。

## 上越市議会が中山間地域振興基本条例でマニフェスト大賞優秀成果賞受賞

うれしいニュースです。第6回マニフェスト大賞の優秀成果賞（6団体）のなかに上越市議会の「議員提案による『中山間地域振興基本条例』の制定」が選ばれました。マニフェスト大賞は首長や議会、議員等の優れた活動に贈られるもので、上越市議会の受賞は初めてです。最優秀成果賞は11月4日に発表されます。どういう結果になるか楽しみです。

今回のマニフェスト大賞には全国から1340団体1670件の応募があったといいます。このなかで当市議会の中山間地域振興基本条例の制定が優秀成果賞の対象のひとつに選ばれたことは、条例制定にかかわってきた議員の一人としてうれしく思います。これからは、この条例を活かし、上越市の中山間地対策の充実に努めていきたいですね。

## 第14回越後よしかわ酒まつりに3500人

10月2日、吉川区杜氏の郷（地名）などで第14回越後よしかわ酒まつりが開催されました。ゆったりの郷ゲートボール場において、全国から集められた199銘柄の酒で利き酒が行われたほか、杜氏の郷前広場の中央舞台では、酒造り唄などが披露されました。

杜氏の郷（会社）前広場のテントでは、区内の商工

業者や農業生産団体などが食べ物や地場産の玉米や野菜などを売り、東京都荒川区、東京吉川会、吉高同窓会なども独自にテントを出し、祭りを盛り上げてくれました。

恒例となった酒造り唄、今年は歌い手の中に若い人の姿もありました。酒造り唄を存続していく人が育っているのは素晴らしいことです。

今回の祭りは、正午前から、雨が断続的に降る中での開催となりましたが人出はまずまず、3500人くらいの人たちが会場を訪れました。

## 吉川区初のLED街灯設置

竹直ライスセンター脇の県道沿いにLED街灯が付けられました。これで安心です。

